

都市再生整備計画 事後評価シート

精華地区

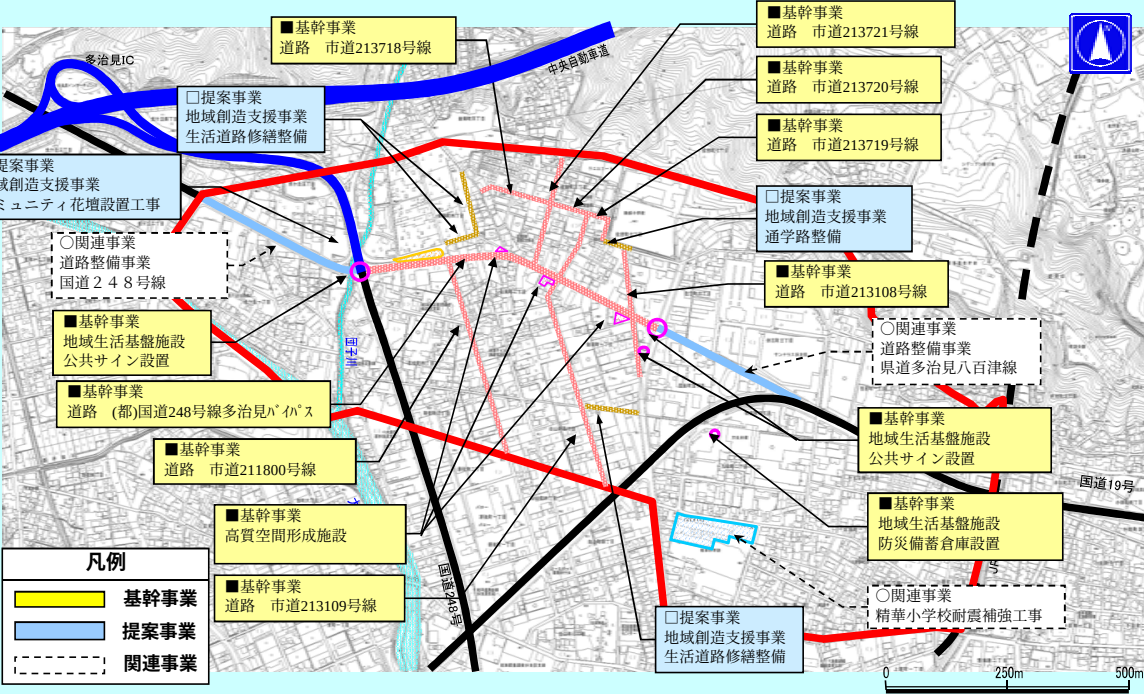
平成24年3月

岐阜県多治見市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	岐阜県	市町村名	多治見市	地区名	精華地区			面積	116ha			
交付期間	平成19年度～平成23年度	事後評価実施時期	平成23年度	交付対象事業費	2,936百万円	国費率	0.4					
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 ・道路事業（(都) 国道248号線多治見バイパス、市道213108号線、市道213109号線、市道213718号線、市道213719号線、市道213720号線、市道213721号線） ・地域生活基盤施設（公共サイン、防災備蓄倉庫） ・高質空間形成施設（ポケットパーク）									
			提案事業	・地域創造支援事業（コミュニティ花壇設置工事、通学路整備） ・まちづくり活動支援事業（まちのクールダウンPR事業）								
		当初計画から削除した事業		基幹事業	なし	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
			提案事業	なし	なし			なし				
		新たに追加した事業	基幹事業	道路事業（市道211800号線）	・道路の劣化が著しい区域内道路を改良するため追加			『小目標2：快適な歩行空間を確保し、誰もが安心して歩くことのできる生活環境を創造する』に若干の影響が考えられるが、他事業等の変更により地区全体としての事業量に多きな変化はないと考えられるため、数値目標は据え置く。				
			提案事業	・地域創造支援事業（生活道路修繕整備） ・事業活用調査（事業効果分析調査）	・道路の劣化が著しい区域内道路を改良するために追加 ・事後評価の実施に際して、目標指標の達成状況を調査する必要があるため新たに追加			『小目標2：快適な歩行空間を確保し、誰もが安心して歩くことのできる生活環境を創造する』に若干の影響が考えられるが、他事業等の変更により地区全体としての事業量に多きな変化はないと考えられるため、数値目標は据え置く。				
	交付期間の変更	当初 変更	平成19年度～平成23年度 —	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			—					
	2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値 基準年度	目標値 目標年度	数 値 モニタリング 評価値		目標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
		指標1	交通事故増加率	%	+44 H14→ H18	-20 H18→ H23			○	あり なし	(都) 国道248号線多治見バイパスの整備（4車線化や歩道設置）をはじめ、(都) 国道248号線多治見バイパスに接続する各種道路における歩車分離や注意喚起等の整備により、交通環境の安全性が向上し、交通事故件数の減少に繋がったと考えられる。	平成25年2月
		指標2	歩行者、自転車利用者数の増加	人/12h	525 H18	580 H23	604		○	あり なし	(都) 国道248号線多治見バイパスの両側に歩道が整備されたほか、(都) 国道248号線多治見バイパスに接続する道路の整備により安全かつ円滑に(都) 国道248号線多治見バイパスへ連絡できるようになったことから、歩行者、自転車利用者数の増加に繋がったと考えられる。	平成24年10月
指標3		地球温暖化抑制に関する地域満足度の向上	ポイント	2.07 H18	3.00 H23	2.76		△	あり なし	(都) 国道248号線多治見バイパスの整備に合わせ、沿道にポケットパークやコミュニティ花壇を整備したほか、(都) 国道248号線多治見バイパス等の各種道路整備において、気温上昇抑制効果のある舗装材を採用したことにより一定の改善はみられたが、目標の達成には至らなかった。	平成24年10月	
3) その他の数値指標 (当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況		指標	単位	従前値 基準年度	目標値 目標年度	数 値 モニタリング 評価値		目標 達成度※1	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
	その他の数値指標1	地区内の1人あたりの公園面積	m ² /人	0.68 H18	- H23	0.93		○	あり なし	(都) 国道248号線多治見バイパスの整備に合わせ、沿道にポケットパークやコミュニティ花壇を整備したことで、地区内の1人あたりの公園面積の増加に繋がった。	平成24年10月	
	その他の数値指標2											
4) 定性的な効果発現状況	・(都) 国道248号線多治見バイパスの両側に歩道を整備したことは、災害時の円滑な避難路の確保としても効果がある。 ・(都) 国道248号線多治見バイパスの整備により渋滞が緩和されれば、バスの運行時間の遅れ解消にも繋がるとの声が上がっている。											
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				—				
	住民参加プロセス	ポケットパークやコミュニティ花壇の整備にあたり、地元中学校の生徒を対象にワークショップを実施し、必要な施設や平面プランについて意見交換を行った。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 整備するポケットパークやコミュニティ花壇については、地元中学校の生徒による自主的な維持管理に向けて協議・調整を図っていく。				
	持続的なまちづくり体制の構築	ポケットパークやコミュニティ花壇の維持管理について、多治見陶都ライオンズクラブが主体となり継続的な維持管理体制を構築する。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 多治見陶都ライオンズクラブが中心となり、沿道の企業や地元の小中学校等の協力を得ながら、地域でポケットパーク及びコミュニティ花壇の維持管理体制を構築していく。				

様式2-2 地区の概要

精華地区（岐阜県多治見市）都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：道路交通機能の向上による安心・安全でうおいあるまちづくり ○目標1：幹線道路等の整備によって、安全で利便性の高い自動車の交通アクセスの向上を図る。 ○目標2：快適な歩行空間を確保し、誰もが安心して歩くことのできる生活環境を創造する。 ○目標3：地域の温暖化を抑制し、過ごしやすい、うるおいに満ちた都市環境を形成する。		交通事故増加率	単位：％	+44	H14→H18	-20	H18→H23	-33	H18→H23
		歩行者、自転車利用者数の増加	単位：人/12h	525	H18	580	H23	604	H23
		地球温暖化抑制に関する地域満足度の向上	単位：ポイント	2.07	H18	3.00	H23	2.76	H23
		地区内の1人あたりの公園面積	単位：㎡/人	0.68	H18	—	H23	0.93	H23
 ■(都)国道248号線多治見バイパスの整備		 ■まちのクールダウンPR事業		 ■防災備蓄倉庫設置					 ■道路 市道213109号線整備
						 ■地域創成支援事業 通学路整備			
						 ■ポケットパーク整備			
まちの課題の変化		○(都) 国道248号線多治見バイパスの4車線化整備をはじめ、(都) 国道248号線多治見バイパスへのアクセス路となる各種道路における歩車分離や注意喚起等の整備により、渋滞解消や交通事故軽減などの交通環境が改善した。 ○(都) 国道248号線多治見バイパスの両側に歩道を整備したほか、接続する道路において歩車分離や注意喚起等の整備を行ったことにより安全に(都) 国道248号線多治見バイパスへ流入できるようになったことで、歩行者、自転車にとって安全な交通環境が創出できた。 ○広域避難所に指定されている文化会館に防災備蓄倉庫を設置したことや、各種生活道路の整備により、緊急車両が既存集落へ流入しやすくなったことで災害時における地区の防災機能が向上した。 ○(都) 国道248号線多治見バイパスの整備に合わせて、ポケットパークやコミュニティ花壇を整備したほか、(都) 国道248号線多治見バイパス等の各種道路整備において、気温上昇抑制効果のある舗装材を施したことで、うるおいに満ちた都市環境が形成された。 ○地球温暖化を抑制し、うるおいに満ちた都市環境の形成を図っていくためには、市民の意識啓発を継続することで、公共交通の利用を促進するなど、環境に配慮した行動変容を促進することが必要である。 ○(都) 国道248号線多治見バイパスの整備に伴い、歩行者と自転車の交通量の増加したことから、歩行者と自転車の交錯などが懸念されるため、さらなる交通環境の安全性向上を図る必要がある。 ○(都) 国道248号線多治見バイパスの4車線化整備において中央分離帯を設置することで、方向転換のために地区内道路へ侵入する交通が増加することが懸念される。							
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)		●(都) 国道248号線多治見バイパス等の整備した道路については、気温上昇の抑制効果がある舗装を施した箇所があることから、施設の劣化状況を鑑み、適切な維持管理に努める。 ●ポケットパークやコミュニティ花壇等については、地区の気温上昇の抑制に繋がるほか、道路沿道環境の向上にも繋がるため、地域住民や学生等との協働のもと適切な維持管理に努める。 ●地区内の生活道路について、今後も緊急車両の進入経路の確保や歩行者・自転車の安全な交通環境の確保に向け、隅切りの設置や歩車分離のためのカラー舗装など、適切な改良整備を推進する。 ●環境に配慮した市民の行動変容の1つとして、日々の移動手段が公共交通へ転換されるよう、継続的な意識啓発や公共交通の利便性向上を検討していく。 ●(都) 国道248号線多治見バイパスの歩道整備やアクセス道路の各種整備に伴い、今後も歩行者と自転車の交通量増加が想定されるため、歩行者と自転車の交錯などの交通安全上の状況を注視しつつ、状況に応じて交通安全対策を検討していく。							

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1ー① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1ー② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2ー① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2ー② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2ー参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3ー① モニタリングの実施状況
- 添付様式3ー② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3ー③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4ー① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4ー② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4ー③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5ー① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5ー② まちの課題の変化
- 添付様式5ー③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5ー参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5ー④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6ー参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1ー② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況 (事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	(都) 国道248号線多治見バイパス	2,900	L=640m	2,689	L=640m	・詳細な設計等の事業の精査により事業費を減額 [第3、4回変更]	事業費等の精査による変更であるため、数値目標は据え置く。		●
	市道213108号線	3	L=250m	11	L=250m	・詳細な設計等の事業の精査により事業費を増額 [第3、4回変更]	事業費等の精査による変更であるため、数値目標は据え置く。		●
	市道213109号線	31	L=440m	37	L=440m	・他路線との調整や地域住民の意向を踏まえ、事業期間を 変更するとともに、詳細な設計等の事業の精査により事業 費を増額 [第3回変更]	事業期間及び事業費等の精査による変更であるため、数値目標は 据え置く。	●	
	市道213718号線	8	L=270m	26	L=270m	・他路線との調整や地域住民の意向を踏まえ、事業期間を 変更するとともに、詳細な設計等の事業の精査により事業 費を増額 [第3、4回変更]	事業期間及び事業費等の精査による変更であるため、数値目標は 据え置く。		●
	市道213719号線	1	L=50m	4	L=40m	・(都) 国道248号線多治見バイパスへのアクセス利便性を 高めるため、整備区間の延長を行うとともに、区間の変更 に伴い事業期間の変更及び事業費を増額 [第3回変更] ・他路線の整備を充実する事により、当該道路整備の必要 が無くなったため一部区間を取りやめるとともに、詳細な設 計等の事業の精査により事業費を減額 [第4回変更]	「小目標2: 快適な歩行空間を確保し、誰もが安心して歩くことので きる生活環境を創造する。」に若干の影響が考えられるが、他事業等 の変更により地区全体としての事業量に多きな変化はないと考えら れるため、数値目標は据え置く。		●
	市道213720号線	4	L=140m	7	L=140m	・他路線との調整や地域住民の意向を踏まえ、事業期間を 変更 [第3回変更] ・詳細な設計等の事業の精査により事業費を増額 [第3、4回変更]	事業期間及び事業費等の精査による変更であるため、数値目標は 据え置く。		●
	市道213721号線	17	L=240m	19	L=230m	・計画平面の一部を現道に併せた線形に変更することで、 事業費を増額 [第3回変更] ・他路線との調整や地域住民の意向を踏まえ、事業期間を 変更するとともに、詳細な設計等の事業の精査により事業 費を増額 [第4回変更]	事業期間及び事業費等の精査による変更であるため、数値目標は 据え置く。		●
	市道211800号線	-	-	12	L=280m	・道路の劣化が著しい区域内道路を改良するため追加 [第5回変更]	「小目標2: 快適な歩行空間を確保し、誰もが安心して歩くことので きる生活環境を創造する。」に若干の影響が考えられるが、他事業等 の変更により地区全体としての事業量に多きな変化はないと考えら れるため、数値目標は据え置く。		●
公園									
河川									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況 (事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	公共サイン	10	2箇所	10	4箇所	・(都) 国道248号線多治見バイパスの整備に併せた詳細な設計等の事業の精査により箇所数を増加 [第3回変更] ・詳細な設計等の事業の精査により事業費を増額 [第4回変更]	『小目標1:幹線道路等の整備によって、安全で利便性の高い自動車の交通アクセスの向上を図る。』に若干の影響が考えられるが、数値目標は据え置く。		●
	防災備蓄倉庫	1	1基	3	1基	・事業の精査により事業費を増額 [第1回変更]	事業期間及び事業費等の精査による変更であるため、数値目標は据え置く。	●	
高質空間形成施設	ポケットパーク	200	2箇所 (A=1,800㎡、A=650㎡)	24	3箇所 (A=240㎡、100㎡、100㎡)	・(都) 国道248号線多治見バイパスの整備に併せた事業進捗を図るため、事業期間を変更 [第3回変更] ・事業進捗による事業地確定のため、事業費を減額 [第4回変更] ・詳細な設計等の事業の精査により事業費を増額 [第5回変更]	『地域の温暖化を抑制し、過ごしやすく、うるおいに満ちた都市環境を形成する。』に若干の影響が考えられるが、数値目標は据え置く。		●
高次都市施設									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1－② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況 (事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業 (都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1：事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	コミュニティ花壇設置工事	64	A=500㎡	60	A=670㎡	・(都) 国道248号線多治見バイパスの整備に併せた事業進捗を図るため、事業期間を変更 [第3、4回変更] ・事業進捗による事業地確定のため、事業費を減額 [第4回変更]	事業期間及び事業費等の精査による変更であるため、数値目標は据え置く。		●
	通学路整備	6	L=70m	14	L=70m	・詳細な設計等の事業の精査により事業費を増額 [第2、3回変更]	事業費等の精査による変更であるため、数値目標は据え置く。	●	
	生活道路修繕整備	-	-	13	L=335m	・道路の劣化が著しい区域内道路を改良するために追加 [第5回変更]	「小目標2:快適な歩行空間を確保し、誰もが安心して歩くことのできる生活環境を創造する。」に若干の影響が考えられるが、他事業等の変更により地区全体としての事業量に多きな変化はないと考えられるため、数値目標は据え置く。		●
事業活用調査	事業効果分析調査	-	-	5	-	・事後評価の実施に際して、目標指標の達成状況を調査する必要があるため新たに追加 [第4回変更]	影響なし		●
まちづくり 活動推進事業	まちのクールダウンPR事業	5	-	2	-	・補助金交付制度の改正により、単独費にて実施するため減額 [第4回変更]	影響なし	●	

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
道路整備事業		国道248号線						
道路整備事業		県道多治見八百津線						
精華小学校耐震補強工事		精華小学校	150	150	H19→H20	H19→H20		

添付様式2－① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考) ※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値 (エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
		単位			基準 年度		基準 年度		目標 年度						あり	なし
指標1	交通事故増加率	%	多治見警察署資料より、(都) 国道248号バイパスの市施行区間における平成19年から平成22年までの年間交通事故件数を把握した。平成19年から平成22年までの年間交通事故件数をもとに、平成23年の年間交通事故件数を推計したうえで、平成18年の年間事故件数からの増減率を算出し評価値（見込み値）として整理した。	-	-	+44	H14→ H18	-20	H18→ H23	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み	●	-33	事後評価	○	
指標2	歩行者、自転車利用者数の増加	人/12h	(都) 国道248号バイパスの市施行区間において、平成23年6月の平日1日（12時間）の歩行者・自転車交通量調査を実施し、歩行者・自転車交通量調査の結果を評価値（見込み値）として整理した。	-	-	525	H18	580	H23	モニタリング			モニタリング			
										事後評価	確定 見込み	●	604	事後評価	○	
指標3	地球温暖化抑制に関する地域満足度の向上	ポイント	精華地区を対象に同様の市民意識調査を実施し、「地球温暖化防止対策」に関する設問の満足度について、従前値と同様の算出方法で計算し、評価値（見込み値）として整理した。	-	-	2.07	H18	3.00	H23	モニタリング			モニタリング			●
										事後評価	確定 見込み	●	2.76	事後評価	△	

指 標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	(都) 国道248号線多治見バイパスの4車線化整備をはじめ、(都) 国道248号線多治見バイパスへのアクセス路となる各種道路における歩車分離や注意喚起等の整備により、交通事故件数が減少傾向を示しており、評価値時点の推計値において目標値の達成が想定される。	
指標2	(都) 国道248号線多治見バイパスの整備合わせ設置される両側歩道の整備がほぼ完了している状況で計測した評価値がすでに目標値を達成した。	
指標3	(都) 国道248号線多治見バイパスの整備に合わせ、沿道にポケットパークやコミュニティ花壇を整備したほか、(都) 国道248号線多治見バイパス等の各種道路整備において、気温上昇抑制効果のある舗装材を採用したことで、実施した意向調査の結果では一定の改善はみられたが、目標の達成には至らなかった。	

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。
※2 目標達成度の記入方法
○:評価値が目標値を上回った場合
△:評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合
×:評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2－② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標			データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考) ※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値 (ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
	単位				基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標1	地区内の1人あたりの公園面積	㎡/人	対象地区内における既存公園面積が対象地区内の人口1人あたりに占める割合を算出し、評価値（見込み値）として整理した。	—	—	0.68	H18	モニタリング			『目標3：過ごしやすい、うるおいに満ちた都市環境を形成する』については、地球温暖化の原因とされるCO2の吸収源となる植物が植樹される公園面積（緑地）の増加を把握することで、その実現状況を確認できると考えられるため。	指標3を補完して、地区のまちづくりに対する効果を説明するため。
								事後評価	確定			
その他の 数値指標2								モニタリング				
									確定			

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2－参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・(都) 国道248号線多治見バイパスの両側に歩道を整備したことは、災害時の円滑な避難路の確保としても効果がある。
- ・(都) 国道248号線多治見バイパスの整備により渋滞が緩和されれば、バスの運行時間の遅れ解消にも繋がるとの声が上がっている。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3－① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3－② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
ポケットパークやコミュニティ花壇の整備にあたり、地元中学校の生徒を対象にワークショップを実施し、必要な施設や平面プランについて意見交換を行った。	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● [実施頻度・時期] 平成23年5、6、7月(計3回) [実施結果] 地元中学校生徒会の生徒8名からなるワークショップを実施し、必要な施設、平面プラン、整備後の使い方などもイメージして意見交換を行った。	整備するポケットパークやコミュニティ花壇については、地元中学校の生徒による自主的な維持管理に向けて協議・調整を図っていく。
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3－③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
ポケットパークやコミュニティ花壇の維持管理について、多治見陶都ライオンズクラブが主体となり継続的な維持管理体制を構築する。	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)	● ポケットパークやコミュニティ花壇の維持管理について、多治見陶都ライオンズクラブへ維持管理体制の構築を依頼	多治見陶都ライオンズクラブを中心に、地元の企業等を取り込んだ地元活動団体	多治見陶都ライオンズクラブが中心となり、沿道の企業や地元の小中学校等の協力を得ながら、地域でポケットパーク及びコミュニティ花壇の維持管理体制を構築していく。
	予定どおり実施した 予定はなかったが実施した 予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
事後評価庁内検討会議	用地課、都市政策課、教育総務課、緑化公園課、消防本部 (予防警防課)	[平成23年8月29日] 精華地区の都市再生整備計画事業による効果発現要因の 整理 以上、計1回	道路河川課 (都市再生整備計画主管課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類		指標1		指標2		その他の数値指標1			
指 標 名		交通事故増加率 (%)		歩行者、自転車利用者数の増加 (人/12h)		地区内の1人あたりの公園面積 (㎡/ 人)			
種別	事業名・箇所名	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見
基幹事業	[道路] (都) 国道248号線多治見バイパス	◎	(都) 国道248号線多治見バイパスの整備 (4車線化や歩道設置)をはじめ、(都) 国道248号線多治見バイパスに接続する各種道路における歩車分離や注意喚起等の整備により、交通環境の安全性が向上し、交通事故件数の減少に繋がったと考えられる。	◎	(都) 国道248号線多治見バイパスの両側に歩道が整備されたほか、(都) 国道248号線多治見バイパスに接続する道路の整備により安全かつ円滑に(都) 国道248号線多治見バイパスへ連絡できるようになったことから、歩行者、自転車利用者数の増加に繋がったと考えられる。	◎	(都) 国道248号線多治見バイパスの整備に合わせ、沿道にポケットパークやコミュニティ花壇を整備したことで、地区内の1人あたりの公園面積の増加に繋がった。		
	[道路] 市道213108号線	○		○		—			
	[道路] 市道213109号線	○		○		—			
	[道路] 市道213718号線	○		○		—			
	[道路] 市道213719号線	○		○		—			
	[道路] 市道213720号線	○		○		—			
	[道路] 市道213721号線	○		○		—			
	[道路] 市道211800号線	○		○		—			
	[地域生活基盤施設] 公共サイン設置	○		○		—			
	[地域生活基盤施設] 防災備蓄倉庫設置	—		○		—			
提案事業	[高質空間形成施設] ポケットパーク整備	—	—	◎					
	[地域創造支援事業] コミュニティ花壇設置工事	—	—	◎					
	[地域創造支援事業] 通学路整備	○	○	—					
	[地域創造支援事業] 生活道路修繕整備	○	○	—					
	[事業活用調査] 事業効果分析調査	—	—	—					
	[事業活用調査] まちのクールダウンPR事業	—	—	○					
関連事業	[道路整備事業] 国道248号線	○	○	—					
	[道路整備事業] 県道多治見八百津線	○	○	—					
	[精華小学校耐震補強工事] 精華小学校	—	—	—					

※指標改善への貢献度
◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
△：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
—：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	気温上昇の抑制効果がある舗装を施した箇所があることから、施設の劣化状況を鑑み、適切な維持管理を推進する。	今後も緊急車両の進入経路の確保や歩行者・自転車の安全な交通環境の確保に向け、隅切りの設置や歩車分離のためのカラー舗装など、適切な改良整備を推進する。	地域住民や学生等との協働のもと適切な維持管理を推進する。
-------	--	--	------------------------------

添付様式4ー③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標3											
指 標 名		地球温暖化抑制に関する地域満足度の向上(ポイント)											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	[道路] (都) 国道248号線多治見ハイパス	△	(都) 国道248号線	III									
	[道路] 市道213108号線	△	多治見ハイパスの整備に合わせ、沿道にポケットパークやコミュニティ花壇を整備した。また、(都) 国道248号線										
	[道路] 市道213109号線	△	多治見ハイパス等の各種道路整備においては、街路灯にLED電球を採用したほか、道路面に気温上昇抑制効果のある舗装材を採用した。これら整備により一定の改善はみられたが、目標の達成には至らなかった。										
	[道路] 市道213718号線	△											
	[道路] 市道213719号線	△											
	[道路] 市道213720号線	△											
	[道路] 市道213721号線	△											
	[道路] 市道211800号線	△											
	[地域生活基盤施設] 公共サイン設置	△											
	[地域生活基盤施設] 防災備蓄倉庫設置	△											
提案事業	[高質空間形成施設] ポケットパーク整備	△		III									
	[地域創造支援事業] コミュニティ花壇設置工事	△											
	[地域創造支援事業] 通学路整備	△											
	[地域創造支援事業] 生活道路修繕整備	△											
	[事業活用調査] 事業効果分析調査	△											
関連事業	[事業活用調査] まちのクールダウンPR事業	△		III									
	[道路整備事業] 国道248号線	△											
	[道路整備事業] 県道多治見八百津線	△											
	[精華小学校耐震補強工事] 精華小学校	△											

※目標未達成への影響度
××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
△：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
－：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	整備したポケットパークやコミュニティ花壇については、地域住民や学生等との協働のもと適切な維持管理を推進していくほか、環境に配慮した市民の行動変容の1つとして、日々の移動手段が公共交通へ転換されるよう、継続的な意識啓発や公共交通の利便性向上を検討していく。			
------------------	---	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5－① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
事後評価庁内検討会議	用地課、都市政策課、教育総務課、緑化公園課、消防本部（予防警防課）	〔平成23年9月12日〕 精華地区における今後のまちづくり方策の検討 以上、計1回	道路河川課（都市再生整備計画主管課）

添付様式5－② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと（課題の改善状況）	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
円滑な自動車交通流を確保することによる、安全で快適な自動車の交通アクセスの向上	・（都）国道248号線多治見バイパスの4車線化整備をはじめ、（都）国道248号線多治見バイパスへのアクセス路となる各種道路における歩車分離や注意喚起等の整備により、渋滞解消や交通事故軽減などの交通環境が改善した。		・（都）国道248号線多治見バイパスの整備に伴い、歩行者と自転車の交通量が増加したことから、歩行者と自転車の交錯などが懸念されるため、さらなる交通環境の安全性向上を図る必要がある。 ・（都）国道248号線多治見バイパスの4車線化整備において中央分離帯を設置することで、方向転換のために地区内道路へ侵入する交通が増加することが懸念される。
安心して歩ける歩行空間を整備するほか、地区の防災機能の向上を図る	・（都）国道248号線多治見バイパスの両側に歩道を整備したほか、接続する道路において歩車分離や注意喚起等の整備を行ったことにより安全に（都）国道248号線多治見バイパスへ流入できるようになったことで、歩行者、自転車にとって安全な交通環境が創出できた。 ・また、広域避難所に指定されている文化会館に防災備蓄倉庫を設置したことや、各種生活道路の整備により、緊急車両が既存集落へ流入しやすくなったことで災害時における地区の防災機能が向上した。	・地区内の他の路線についても、継続的に交通環境の向上を図る必要がある。	
緑地等の空間整備を図るとともに、市民へのPR、気温上昇を抑制する舗装材を採用するなど、うるおいに満ちた都市環境の形成	・（都）国道248号線多治見バイパスの整備に合わせ、ポケットパークやコミュニティ花壇を整備したほか、（都）国道248号線多治見バイパス等の各種道路整備において、気温上昇抑制効果のある舗装材を施したことで、うるおいに満ちた都市環境が形成できた。	・地球温暖化を抑制し、うるおいに満ちた都市環境の形成を図っていくためには、市民の意識啓発を継続することで、公共交通の利用を促進するなど、環境に配慮した行動変容を促進することが必要である。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5－③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	・整備した道路の適切な維持管理	・(都) 国道248号線多治見バイパス等の整備した道路については、気温上昇の抑制効果がある舗装を施した箇所があることから、施設の劣化状況を鑑み、適切な維持管理に努める。	・道路施設の維持管理
	・整備した公園等の適切な維持管理	・ポケットパークやコミュニティ花壇等については、地区の気温上昇の抑制に繋がるほか、道路沿道環境の向上にも繋がるため、地域住民や学生等との協働のもと適切な維持管理に努める。	・地域住民等との協働による維持管理

B欄 改 善 策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	・生活道路の交通環境向上	・地区内の生活道路について、今後も緊急車両の進入経路の確保や歩行者・自転車の安全な交通環境の確保に向け、隅切りの設置や歩車分離のためのカラー舗装など、適切な改良整備を推進する。	・交差点改良(隅切り設置)の推進 ・道路拡幅整備の推進
	・公共交通の利用促進	・環境に配慮した市民の行動変容の1つとして、日々の移動手段が公共交通へ転換されるよう、継続的な意識啓発や公共交通の利便性向上を検討していく。	・バス停の新設・改良 ・公共交通の運行改善
	・自転車・歩行者交通環境の安全性向上	・(都) 国道248号線多治見バイパスの歩道整備やアクセス道路の各種整備に伴い、今後も歩行者と自転車の交通量増加が想定されるため、歩行者と自転車の交錯などの交通安全上の状況を注視しつつ、状況に応じて交通安全対策を検討していく。	・自転車走行空間の連続性の確保 ・自転車利用者への運転マナー等の啓発活動

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5－③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4－②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4－③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5－②)を再確認した。

添付様式5－参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標			単位	従前値	年度	目標値	年度	評価値			目標 達成度	1年以内の 達成見込みの 有無	フォローアップ計画			
													予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	交通事故増加率	%	+44	H14→ H18	-20	H18→ H23	確定		-33	○	あり		→	平成25年2月	多治見警察署資料より、(都) 国道248号バイパスの市施行区間における平成24年の年間事故件数を把握したうえで、平成18年の年間事故件数からの増減率を算出し、確定値として整理する。	
							見込み	●								
指標2	歩行者、自転車利用者数の増加	人/12h	525	H18	580	H23	確定		604	○	あり		→	平成24年10月	(都) 国道248号バイパスの市施行区間において、従前値と同時期に平日1日(12時間)の歩行者・自転車交通量調査を実施し、その結果を確定値として整理する。	
							見込み	●								
指標3	地球温暖化抑制に関する地域満足度の向上	ポイント	2.07	H18	3.00	H23	確定		2.76	△	あり		→	平成24年10月	平成24年度に実施予定である「多治見市市民意識調査」において、「地球温暖化防止対策」に関する設問に対する精華小学校区の満足度を抽出し、その結果を確定値として整理する。	
							見込み	●								

その他の 数値指標1	地区内の1人あたりの公園面積	㎡/人	0.68	H18		確定		0.93				→	平成24年10月	評価値と同様に、対象地区内における公園面積が対象地区内の人口1人あたりに占める割合を算出し、確定値として整理する。	
						見込み	●								
その他の 数値指標2						確定						→			
						見込み									
その他の 数値指標3						確定						→			
						見込み									

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		今後は、適正な事後評価の実施も踏まえ、整備スケジュールの検討を行っていく。
	うまく いかなかった点	『(都) 国道248号線多治見バイパスの整備』において、歩道の設置など一部共用部分の効果は確認できたものの、4車線化や中央分離帯の設置など最終形の整備が交付対象期間の最終年度末までとなったことから、評価時点において最終段階での効果把握が困難であった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	(都) 国道248号線多治見バイパスの両側に歩道を整備したことで、歩行者、自転車の安全な交通環境が創出でき、数値目標を超える効果を把握できた。	
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	対象事業である「ポケットパーク整備」及び「コミュニティ花壇設置工事」において、計画段階で地元中学校の生徒の意向を取り入れることができ、利用者の立場を踏まえた計画的な整備ができた。	今後も各種施設の整備推進にあたり、住民参加を促進していく。
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	事後評価において、庁内検討会議等の意見を踏まえ、今後のまちづくりの方策を検討し、対象地区を中心とした地域における今後の課題とまちづくりの方策を整理できた。	他地区においても、庁内の会議や評価委員会等を円滑に実施し、対象地区の良好なまちづくりを目指した事業評価を実施していく。
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称 (当該地区の次期計画も含む)

多治見駅周辺地区：平成27年度以降に事後評価実施予定

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成23年10月 5日～10月20日	平成23年10月 5日～10月20日	担当課への FAX、電子メール等	道路河川課
広報掲載・回覧・個別配布	広報たじみに市のホームページ及び窓口で原案を公表している旨を記載	平成23年10月1日 10月1日号	平成23年10月 5日～10月20日		
説明会・ワークショップ	—				
その他	担当部署窓口での閲覧	平成23年10月 5日～10月20日	平成23年10月 5日～10月20日		

住民の意見	なし
-------	----

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	松本 直司(名古屋工業大学大学院工学研究科 教授)	平成23年11月30日(水)	道路河川課	多治見市都市再生整備計画事業(まちづくり交付金)評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	志村 稔博(元多治見市 助役) 渡邊 勝利(東濃信用金庫 会長) 松浦 利実(多治見市議会 建設常任委員会委員長) 加藤 文恵(市民)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・方法書に従って、事業評価が遂行されたことを確認した。
	成果の評価	・指標1の交通事故について、トレンド推計で今年が発生件数を56件と見積もっていますが、現時点での事故件数は把握していますかとの意見があった。 ⇒ 9月末時点で51件と把握していると返答。
	実施過程の評価	・実施過程において、ポケットパークの計画に地元中学校が係わっているため、整備後の管理についても中学校の生徒に参画をお願いしてはどうかとの意見があった。 ⇒ ワークショップ内でも生徒から管理に対する前向きな意見も出ているので、今後学校側と協議をしきたいと返答。
	効果発現要因の整理	・ポケットパークに災害時の一時避難場所としての機能が持たせることができれば、防災機能の強化という付随的な効果をできたのではとの意見があった。 ⇒ 公園などの防災機能については、市内全域を対象にして、今後、総合的に検討していく予定と返答。
	事後評価原案の公表の妥当性	・公表の方法等について、妥当であることを確認した。
	その他	・特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きについて、妥当に進められたことを確認した。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・1人あたりの公園面積が増加していることは理解できますが、0.93㎡/人というのはまだまだ少ない気がします。もっと広域的に見て数値を出すことが良いのかも知れませんが、緑の空間がより一層増えると良いと思います。
	フォローアップ	・市民が身近に確認できるように、適切に公表してほしいとの意見があった。
	その他	・スピードを出して走る自転車は、場合によって凶器になるということを認識する必要がある。そのため、今後は自転車利用者への運転マナーの改善や放置自転車の抑制などに向け、継続的な教育が大切になってくると思います。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策について、妥当であると認められた。
その他		

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。